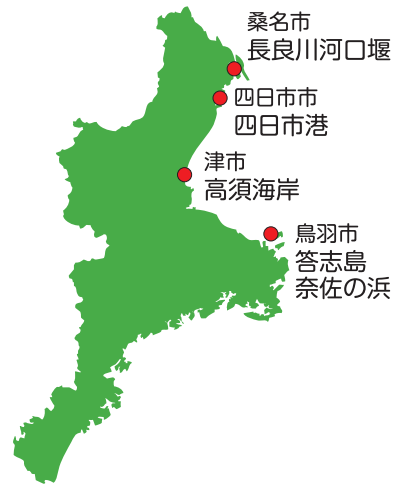


下流域の漂着ごみ

三重県



■長良川河口堰



ゲートの上流側にたまった流木や一般廃棄物を収集する作業の様子。

写真提供：独立行政法人水資源機構長良川河口堰管理所

■四日市港



2018年8月17日撮影

■高須海岸



2018年7月9日撮影

西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨（2018年6月28日～7月8日）の影響で流木など大量のごみが三重県の日四市港や高須海岸に漂着した。

写真提供：四日市大学環境情報学部 客員教授 千葉賢氏

■答志島 奈佐の浜



2017年10月24日撮影

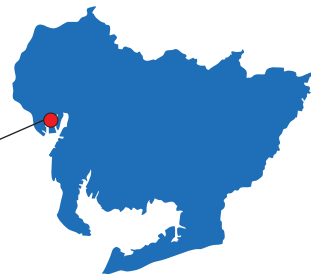


2019年10月 海岸清掃後の奈佐の浜

奈佐の浜は、伊勢湾の中で最も漂着ごみが集まる海岸と言われている。伊勢湾に流れ込む河川水の7割は木曾三川が占めており、伊勢湾に流れ込むごみも同河川からのものが多いと推定される。

写真提供：四日市大学環境情報学部 客員教授 千葉賢氏

愛知県



■庄内川・新川河口部



2025年10月18日撮影



藤前干潟クリーン大作戦

藤前干潟クリーン大作戦(2025年10月18日)に海と日本プロジェクト in 岐阜県が参加！海洋ごみ学習の一環として岐阜県内の小学生と大学生が参加し、庄内川・新川河口部の中堤会場で清掃活動を体験した。第43回目となる2025年秋の「藤前干潟クリーン大作戦」では、藤前干潟と庄内川、新川河口域一帯に設けた中堤会場および藤前会場、9学区会場の計11会場で清掃活動が行われ、1,947名もの方が参加し、1,404袋（45Lごみ袋）のごみを回収した。

「藤前干潟」は伊勢湾最奥部に位置し、潮の満ち引きで多様な環境が作られ、多くの生き物が生息する場所。しかし、多くのごみが流れ漂着する場所でもあり、毎年、春と秋に大規模な清掃活動が行われている。

海と日本プロジェクト in 岐阜県

長良川ごみ分布調査2025



海のない岐阜県から、海を守るために私たちができることは？

近年、海洋プラスチックごみが国境を越えた大きな問題となっています。国内では、流木などの自然ごみも漁業や海洋生物などへの直接的な被害を与えており、プラスチックごみを含めて、その対策が求められています。環境省の調査では、伊勢湾の漂着ごみの大半は伊勢湾流域由来することがわかっており、内陸の岐阜県においても発生抑制に取り組む必要があります。海と日本プロジェクト in 岐阜県では、美濃市を流れる清流・長良川を対象に河川区域におけるごみの散乱状況の実態把握を目的として調査を行い、その結果を本資料にまとめました。本資料をきっかけに、海洋ごみ問題について考えていただけたら幸いです。

海と日本プロジェクト in 岐阜県 長良川ごみ分布調査2025

〈主催〉 一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜（事務局 株式会社岐阜放送）
〈監修〉 四日市大学環境情報学部 客員教授 千葉賢氏
〈協力〉 岐阜県美濃市市民生活課

海と日本プロジェクト岐阜のホームページでは本調査の詳しい結果を公開しています

<https://gifu-uminohi.jp/>

本調査は日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました



海と日本プロジェクト in 岐阜県 2025年度 長良川ごみ分布調査 長良川ごみマップ

長良川流域（美濃市内）から選定した5地点において、ごみを回収しその個数を数え、ごみの分類ごとに計算することでごみの量と組成を調査しました。各地点において調査は2回実施しました。調査地点は「人が利用する地域」「橋の周辺」など、比較のごみが溜まりやすいと考えられる特徴を有する地点とし、事前視察をもとに決定しました。



調査には大学生を中心に、岐阜・三重・愛知に在住・在学する中学生から社会人まで幅広い年代の方にご参加いただきました。

① 曾代 左岸

釣り客の利用が多いエリア

たばこの吸い殻、劣化した不燃ごみ、パイプ、金属片などが見られた



たばこの吸い殻



劣化した不燃ごみ



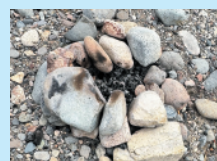
パイプ



プラスチックごみ

③ 美濃橋 右岸

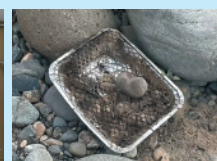
バーベキューやキャンプの利用客がとても多いエリア



直火跡



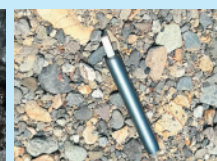
金網



使い捨てコンロ



たばこの吸い殻



電子たばこ

薪木・炭、金網などキャンプで利用されるもの、たばこの吸い殻などが多く見られた

⑤ 山崎大橋 左岸

河川敷が広く川遊びなどに利用されているエリア



直火跡



衣類



燃え残ったごみ



流木・灌木

一部レジャー由来のものが見られたが比較のごみは少ない
橋の近くに流木・灌木などの自然ごみが確認された

④ 下渡橋 右岸

初夏に草が生い茂り見通しが悪くなるエリア



不法に投棄されたと思われるごみが見られた



② にわか茶屋 左岸

川遊びやバーベキューなどに使われているエリア



ペットボトルやプラスチック容器



ライター



プラスチック片



木材

流木

ごみの個数が非常に多く、流木・灌木等の自然ごみやプラスチックごみが見られた
漂着ごみと現地発生のごみが混在した状況になっていると考えられる

② にわか茶屋 左岸

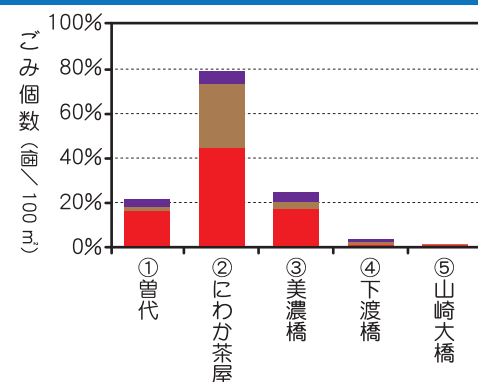


にわか茶屋付近は、本川の流れが南向きから南西に方向を変える場所にあたり、勢いのある流れが美濃橋の手前にある大岩にあたり、にわか茶屋方向（北向き）に逆流し、渦を形成すると言われている。この逆流する渦により、上流からのごみも運ばれて、にわか茶屋付近の河岸に漂着すると考えられる。

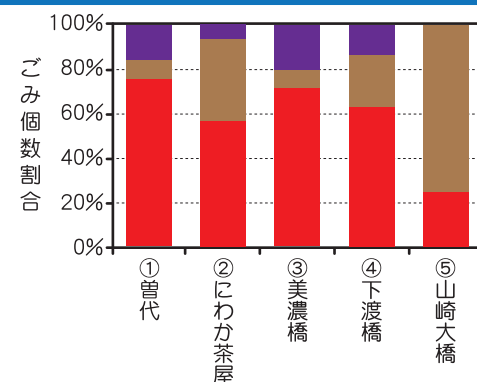


CHECK!

《5地点の分類別ごみ個数割合》 ■プラスチックごみ ■可燃ごみ（プラスチックを除く） ■不燃ごみ



調査区画 100 m²あたりの分類別ごみ個数



調査区画 100 m²あたりの分類別ごみ個数割合

100 m²あたりのごみ個数は第1・2回の調査のどちらでも、にわか茶屋が最大で、他地点に比べてかなり多かった。にわか茶屋の次にごみ個数が多かったのは曾代と美濃橋で、下渡橋と山崎大橋は、これらの地点に比べて少なかった。

美濃橋の調査区画では、たばこの吸殻、不燃物、直火跡が多数確認されており、河原で活動する人たちに由来するごみが多いと考えられる。各地点のごみの分類別割合を比較すると、ごみの個数の少なかった山崎大橋を除くと、プラスチックごみの割合が60～90%で、各地点は似たような状況にあることが分かった。

